
次期侯爵様が
暇乞いを
許さない


次期侯爵様が暇乞いを許さない
言ったらどうする？



王子様に
選ばれるのは

綺麗な靴が似合う
物語の女の子だけ




ドクン
……これは普通のこと
私はただの使用人だから
ドクン
これはきっと
いやらしいことでもなんでもないんだから
ドクン

とある貴族の妾の娘の私は

屋敷の離れで暮らし

家の手伝いをして過ごしていた

異母妹がいたけれど

ほとんど会話をしたことが無かった

人の役に立つようにと継母様の計らいで

私は行儀見習いに出された

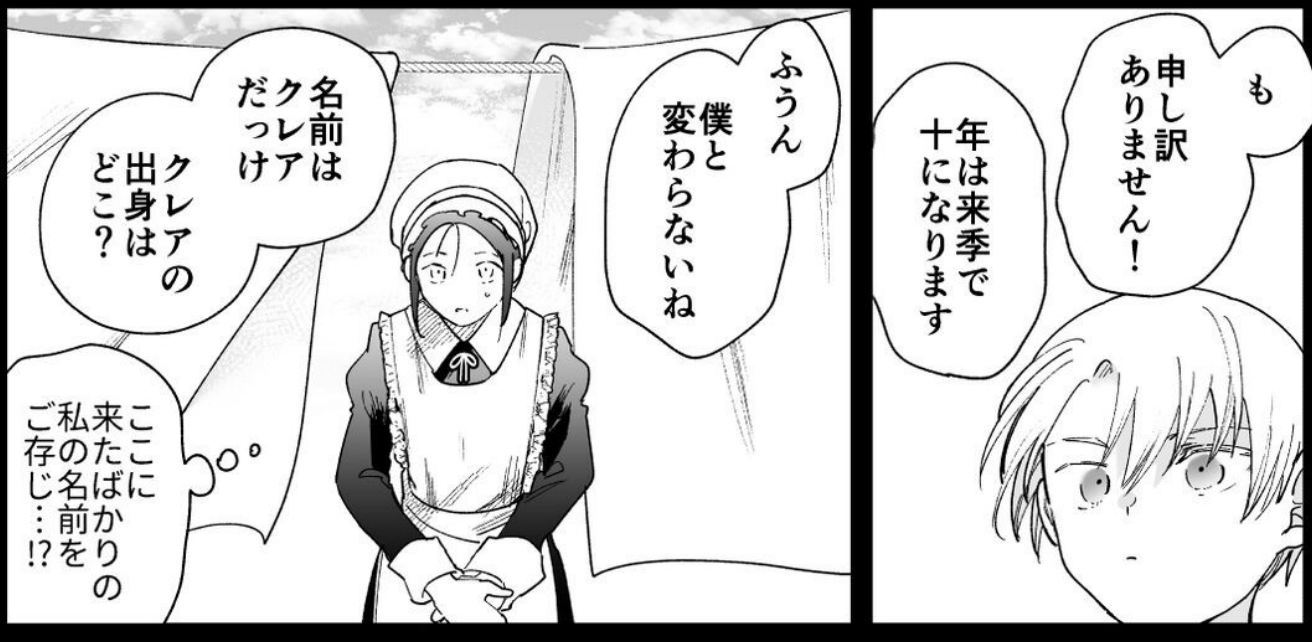


ハイ！

新しい使用人？


この方は
…旦那様の御嫡男
ミケル様
お前年はいくつ？


坊ちゃまおはようございます
おはようベラ
ねえ
聞いてるんだけど


も申し訳ありません！
年は来季で十になります
ふうん僕と変わらないね
名前はクレアだっけ
クレアの出身はどこ？
ここに来たばかりの私の名前をご存じ…!?


ミドリアです
へえ
祖母と同じだ
坊ちゃま
クレアに御用で？
いや用は無い
貴族の娘なのに初日から良い働きをしていると
乳母のイライザが珍しく褒めていたから
どんな使用人か気になって見に来たんだ
イライザ様が…
…それは…
光栄です


リュシェール侯爵次期当主ミケル様は
ただの使用人の私に
度々声を掛けてくださった
周りに同年代の方がいなかったからだろう
クレアは家族の話をしないな
たまにはお前の家族の話が聞きたい
…私には妹がいます
ああ
ウスペンスキー子爵家には娘が二人いると聞いたな…


お前は行儀見習いに来ているが妹は違うのか？
年が離れているのか？
僕には兄弟がいないから分からないが
年の離れた兄弟はきっと可愛いんだろうな
……そう
なんでしょうか…
申し訳ありません
分からないです…
？


クレアさん給金の支払いです
はい
ありがとうございます


今回も…ウスペンスキー子爵に直接送るという形式でよろしいのですか？
はい
……


クレア
はい
怪我をしたらしいがさっき会った時にどうして教えてくれなかったんだ
…必要が無いかと…
必要無いかどうかは僕が決める
時が経つ程にミケル様は次期当主らしい出で立ちになられた


僕はお前の話が聞きたい
昔から何度も言ってるはずだが
……少し難しいですが…
わかりました
…お前は命令には素直だな
それは当然ですので…？
ミケル様は使用人にも情け深く
字の読み書きも本の読み方も何でも教えて頂けた
…とりあえず怪我を見せろ
ミケル様が嘘を仰ることは一度も無かった


今日は旦那様達は社交界に出かけている
もうずっと家族には会ってないけど
継母様達も参加してるのかな
……
お帰りなさいませ旦那様
ミケル様


ミケル様…？
お顔色が
クレア
来い
あらあら
たったったっ
キャー
キャー
どすっ
今日は
ウスペンスキー
子爵夫人らが
夜会に来ていた
どきっ
！
お前のことは毎月
報告していたからな
夫人は
とても機嫌が
良かったよ


あれがお前の家族か
お前の妹はお前に似てないな


リュシェール侯爵お目にかかれて光栄です
これは娘のシルビアです


僕に女っ気が無いからと
近頃は縁談の話が増えているが…
夫人からも着飾った娘を勧められたよ


普段より荒々しい言葉
こんなに不機嫌なミケル様初めて見る
……
どうしよう
…何も反応無しか


お前は僕が誰かと婚約しても良いの？
？
…それは…どういう…？
私が意見することではありません
……
そう言うと思った…
僕はずっと想ってる人がいるんだ
えっ
そ
そうだったんですね…！
それは私の家族が失礼を

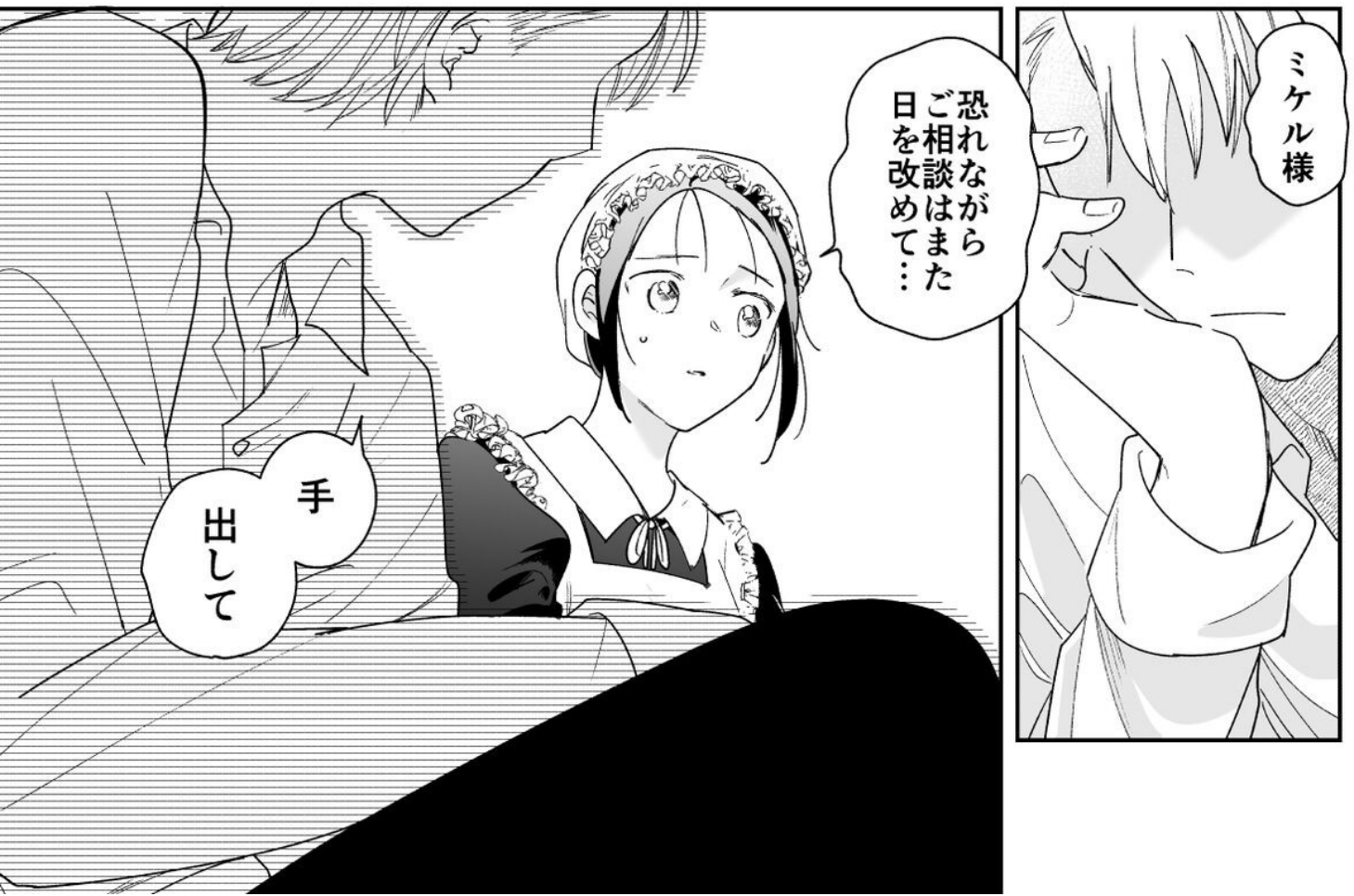

…僕はクレアが良いんだよ
えっ…?!


……
私が良い？
そんな…こと……
キャー
御冗談ですよね
ミケル様がこんな冗談を言うなんて
本当に今日はどうされたの…
そう…
…相談があるクレア


…それにしても
こんな時間に
ミケル様のお部屋に
入るのは久し振りかも
しれない
ご相談とは…？
とりあえず
ここ
座ろうか
さっきは
驚いた
心臓に悪い
ミケル様
ギィ…


え？
そこは…
ミケル様の
寝台に座る
わけには
いいから
ガシ

どうしよう
こんな状況
他の人に
見られたら…
……

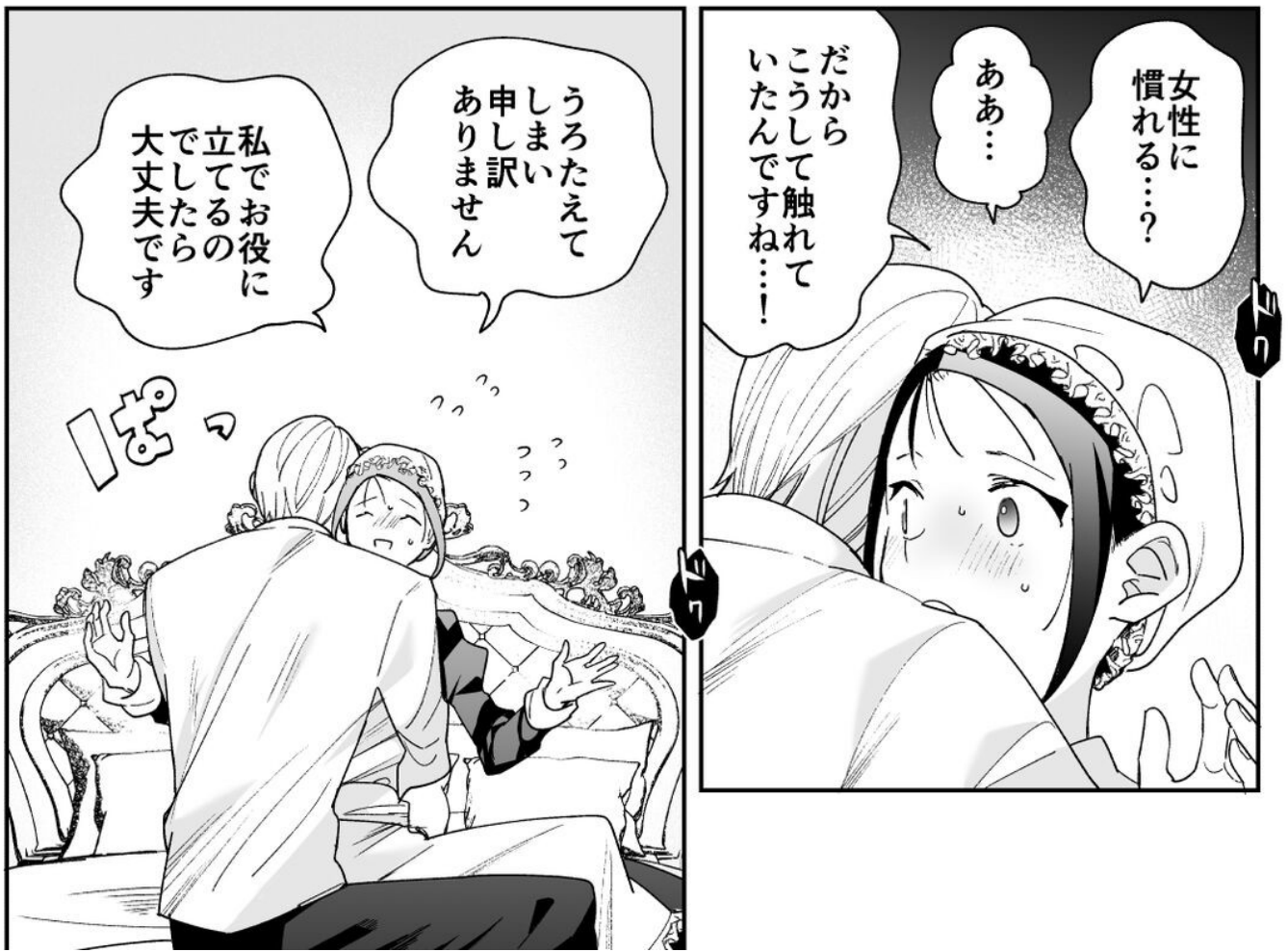

ミケル様
恐れながら
ご相談はまた
日を改めて…
手
出して


早く
…手？
あの…？
すっ…
ミケル様？
ドキ…
すい…
先程も
そうですが
すい…
ドキ…
すい…
こんな汚い手に
触れるのは…
やめた方が
ドキ…


汚くない
……!?
近いです!
クレア
…実は僕は女性が苦手なんだ
え?
クレア達のように幼い頃から見知っている女性は別だよ
え?
でもそれ以外の女性が苦手で前から困ってたんだ
え?


僕は爵位を継がなければならない…
こんな事実恥ずかしくて他言するのは控えていた
ドク
教えたのはクレアが初めてだよ
ドク
…そうだったんですね
それはお辛いお気持ちを…


うん
…だから
僕が女性に慣れることができるように
協力してほしいんだ


女性に慣れる…？
ドク
ああ…
だからこうして触れていたんですね…！
ドク
うろたえてしまい申し訳ありません
私でお役に立てるのでしたら大丈夫です
ぱっ

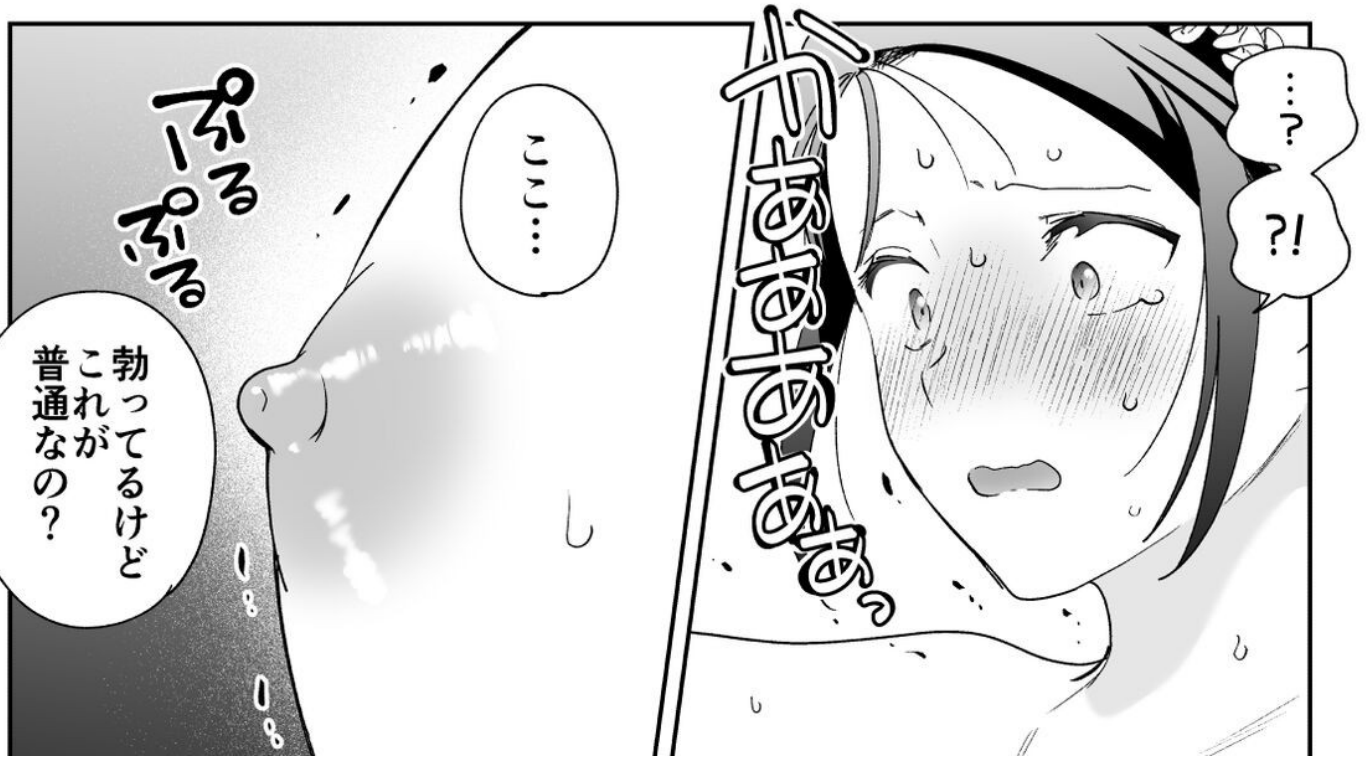

じゃあ
服
脱いで
全部
え…？


ミケル様
それは御冗談…
さっき了承しただろ
早く
……
私を産んですぐに亡くなった母
卑しい女の娘だと言われて育って
今はただの使用人で
だから


……
拒否権なんて…
ぼそ
本当に脱ぐと思わなかった…
!?
お
仰ったから…
カアアア
隠さないで
下も脱いで
!?
ミケル様
これ以上は…

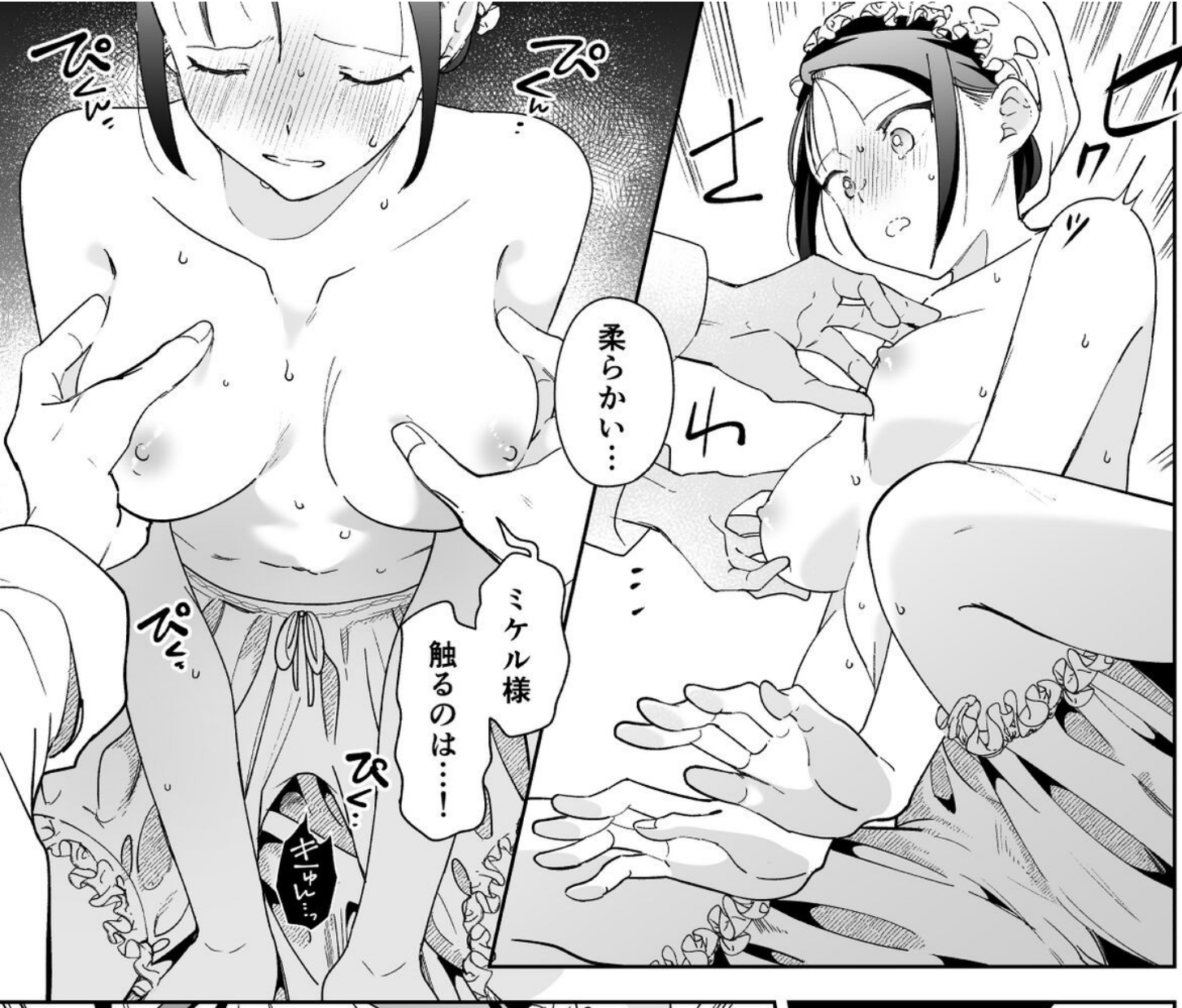

ぽ
!?
…まあいいか
下と帽子だけ残ってるのも逆に…悪くない


…綺麗
!?


…?
?!
おおおおお
ここ…
ぷるぷる
勃ってるけどこれが普通なの?


…!?
み
ミケル様
女性に慣れるためと仰ったから私はこうしているので…
恥ずかしいことはあまり仰らないで頂けると…
何言ってるんだ
これは必要なことなんだよ
えっ!!?
そうなの!?
手
離しても隠したら駄目だよ
こっちに座って


両手はその位置で
うん…
はぁ…はぁ…
？
そう…
…自分で胸強調してるのわかる？
……っ
ドクドクドクドク
これは何…?!
はしたない！
恥ずかしい…！
こんなことしていいの…?!
ミケル様本当に女性が苦手なの…?!


ぴくん
ぴ
柔らかい…
ミケル様
触るのは…！
ぴく…
きゅん…っ

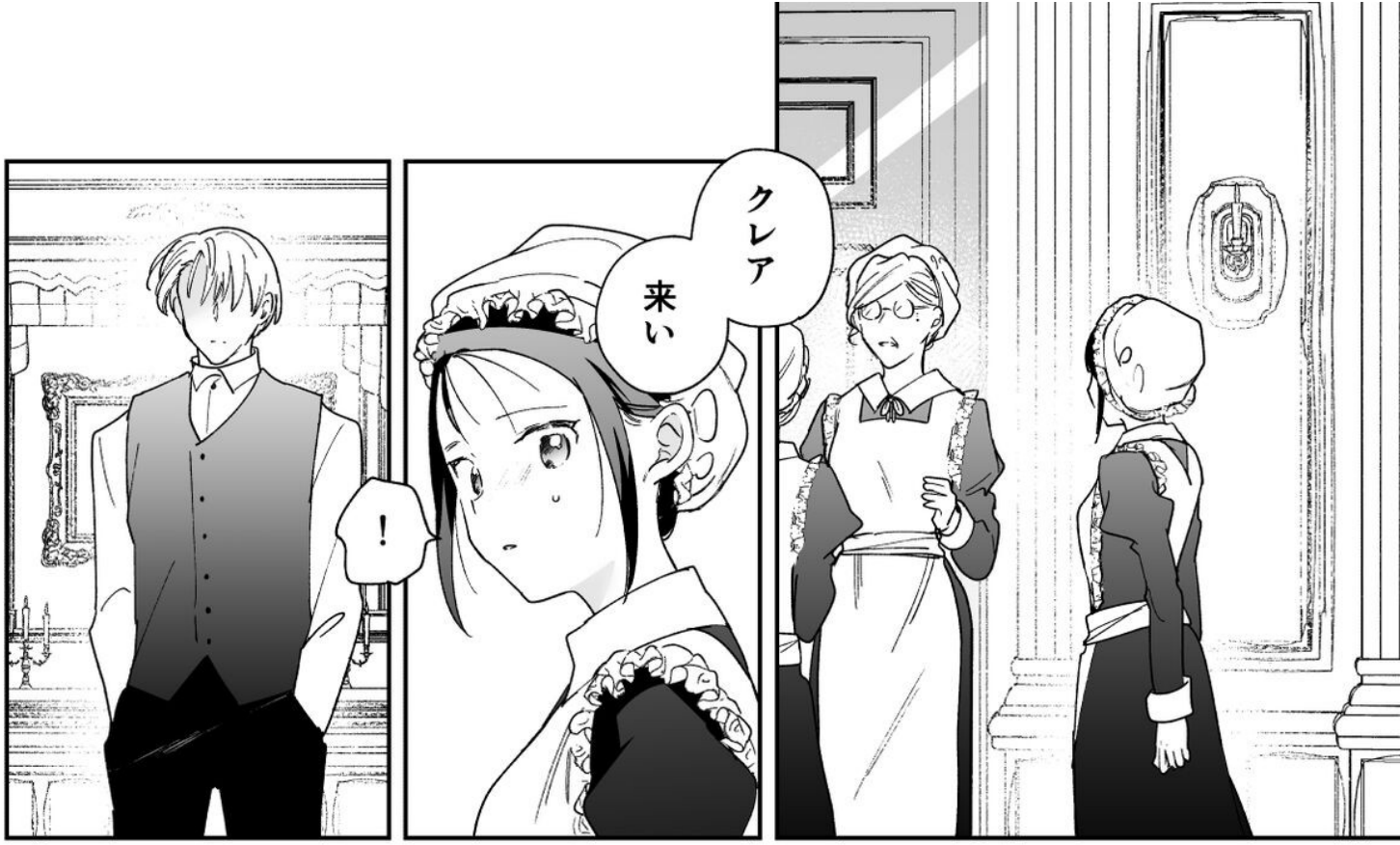

触れないと
意味が
無いだろう
そうなの…？
これは
必要な
こと…っ?!
ここ…
どんどん
硬くなってる
きゅっ
ビクンッ
んっ！


ミケル様…
それ
だめ…
です
むずむずする
くすぐったい…
じゃなくて
もっともっと
続けてほしい…
ような
…そういう反応
してくれるのを
ずっと待ってた
…クレア


下も見たい
はぁ
はぁ
した…
ビギ
それは…
はぁ…
はぁ
申し訳ありません
夫になる殿方にしか見せては駄目だと…
キュン
はー
はぁ
はぁ
……
何それ
キュン
僕は論外ってこと？
!?
ビクッ
ん…っ
もしかして
ぐり
ぐり
ぐり
ぐり
ぐり…
はっ
はっ
はっ
…僕が知らないだけで操を立てた相手がいるとか…
……
駄目
この刺激変になる…っ


ビクッ
!?
ミケル様
ちゅっ
ビクッ
んっ
ぱっ
ちゅっ
食べ……っ
……っ!?
ぷるぷる
ぷるぷる
ぴんっ
ぴんっ
ぴんっ


ちゅうちゅう
ヒクヒク
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



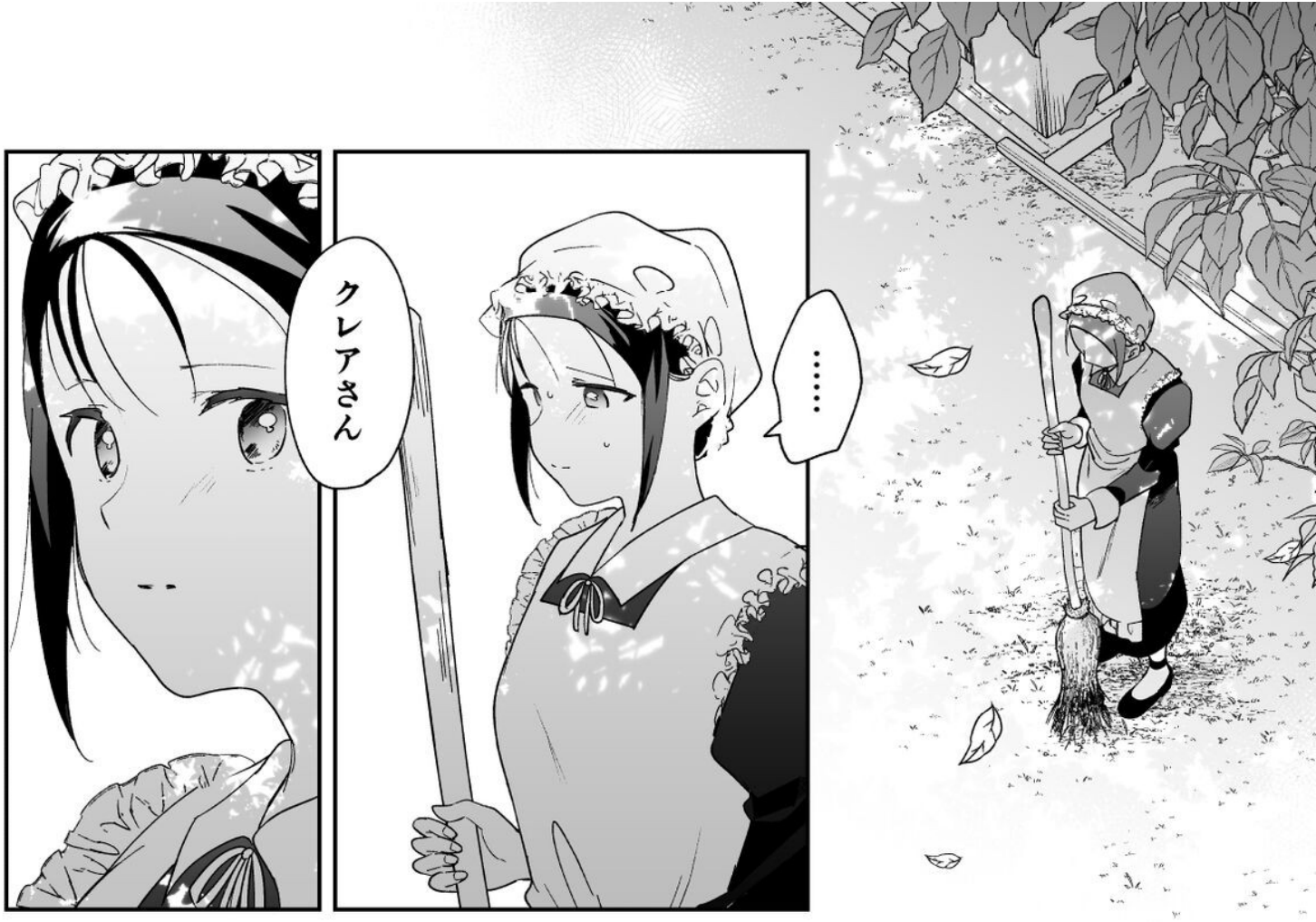



ミケル様は度々
私を呼び出し
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ…
くり
くり
ぷっ
ぷっ
ぷっ


クレア
気持ち良い？
ちゅぱ
…わかりません
……
はぁ
異様な光景
ガリッ
!?
ピクンッ
きゅっ
ビクッ
これがミケル様のために必要な行為なのかわからない
でもミケル様が嘘をつく理由が無いから
きっとこれは正しいこと
はぁっ
はっ


ちゅっ
ちゅっ
ちゅ〜〜…
ちゅっ…
ぴくっ
ちゅっ…
ぴくっ
ミケル様…
はっ…
はっ…
あっ
はぁっ
ちゅ、
ちゅっ、
ちゅくく、
ちゅくく、
ちゅ、
ちゅ、


…クレア
はぁっ
はぁ、
…ここも疼いてない？
…？
ぼーっ
や!?
こすっ
あっ
こすっ
こすっ
こすっ
こすっ
そこっ
やっ
んっ
ヒクッ
ヒクッ
……
？
はぁ…
はぁ…
は——…


……
クレアさん


休憩した方が良いんじゃない？
顔色悪いよ
ハンスさん…


すみません大丈夫です
そう？


……
メイドのベラさん達が噂してたけど

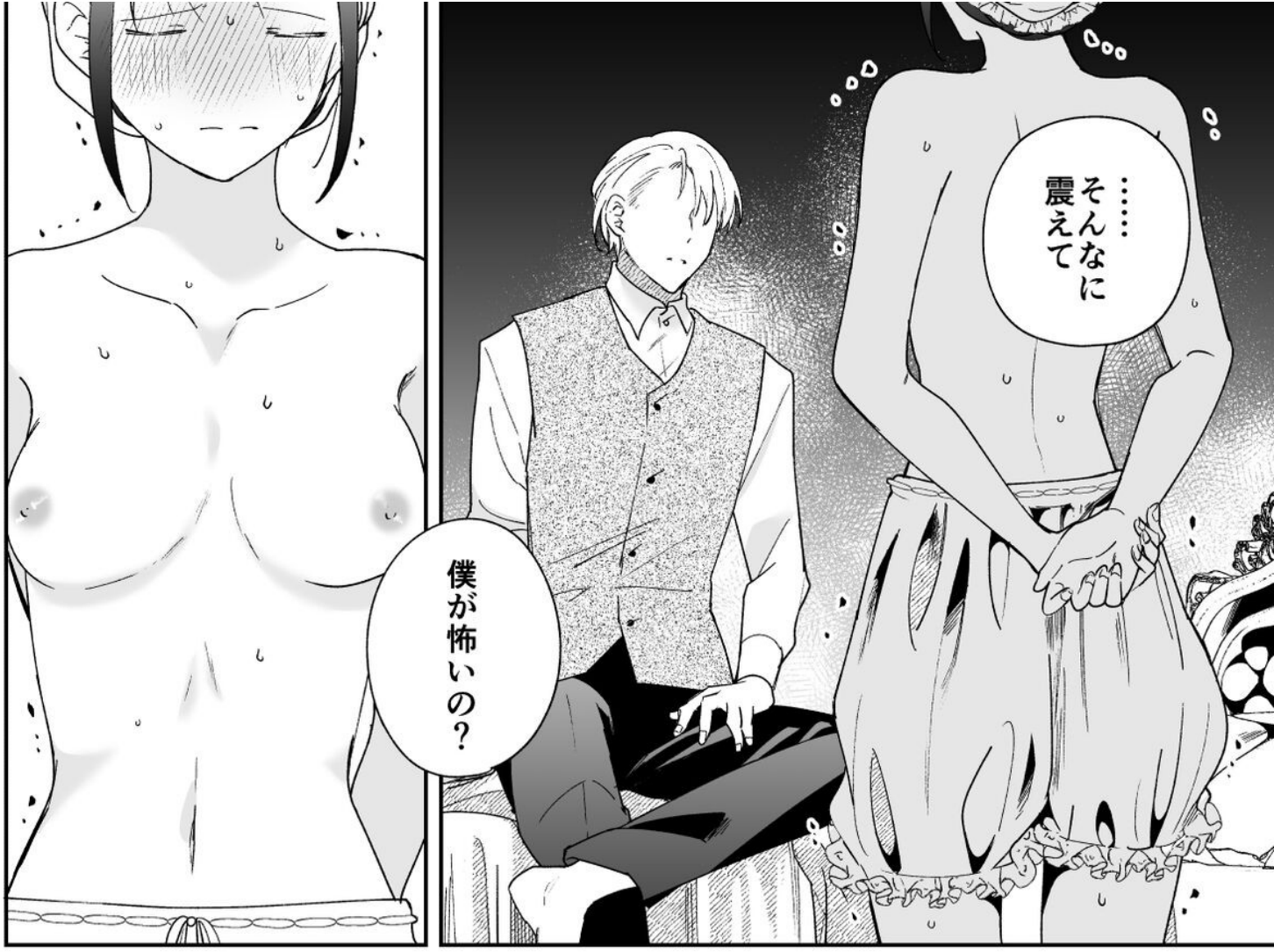

ミケル様とあんたが好い仲って本当？
え…
なんでそんなこと…
…そんなこと決してありえませんよ
そうなんだ
それなら良かった
実はずっと誘いたかったんだけど
仕事中に女を口説く暇があるのか


ミケル様…
クレアから離れろ


ミケル様
ぽたぽた

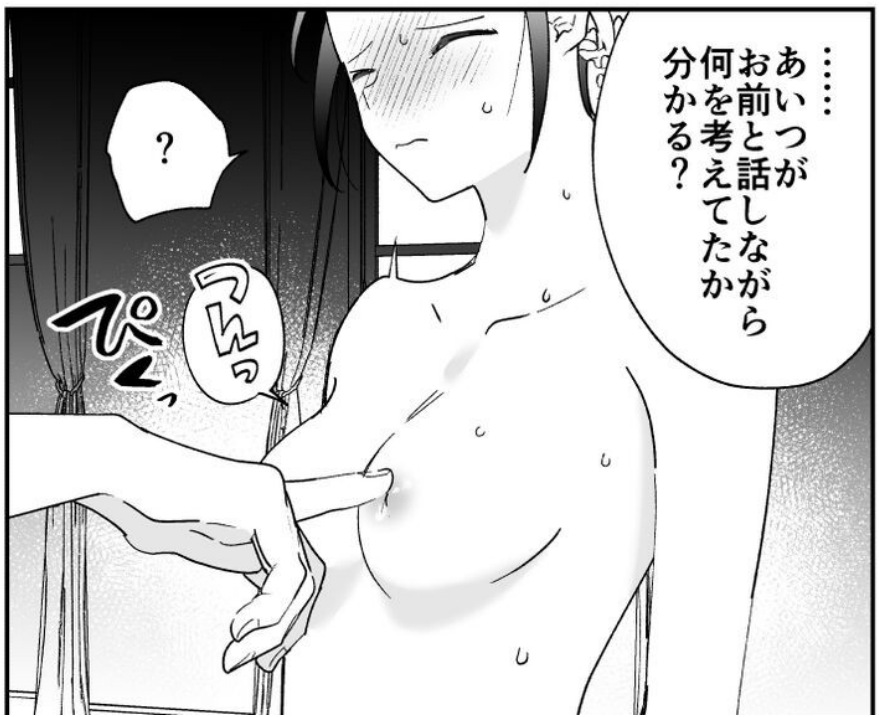



怒っていらっしゃる？
そんなこと決してありえません…か
あいつは臨時で雇った庭師だったな
解雇する
えっ!?
もう一部の土地の管理も任されてる
屋敷の人事に口を出しても問題無いだろう
普段から女遊びが多いと聞いていたが
お前に手を出すのは看過できない


……そんなに震えて
僕が怖いの？


み
ミケル様…
これは本当に必要なこと
なんですか？

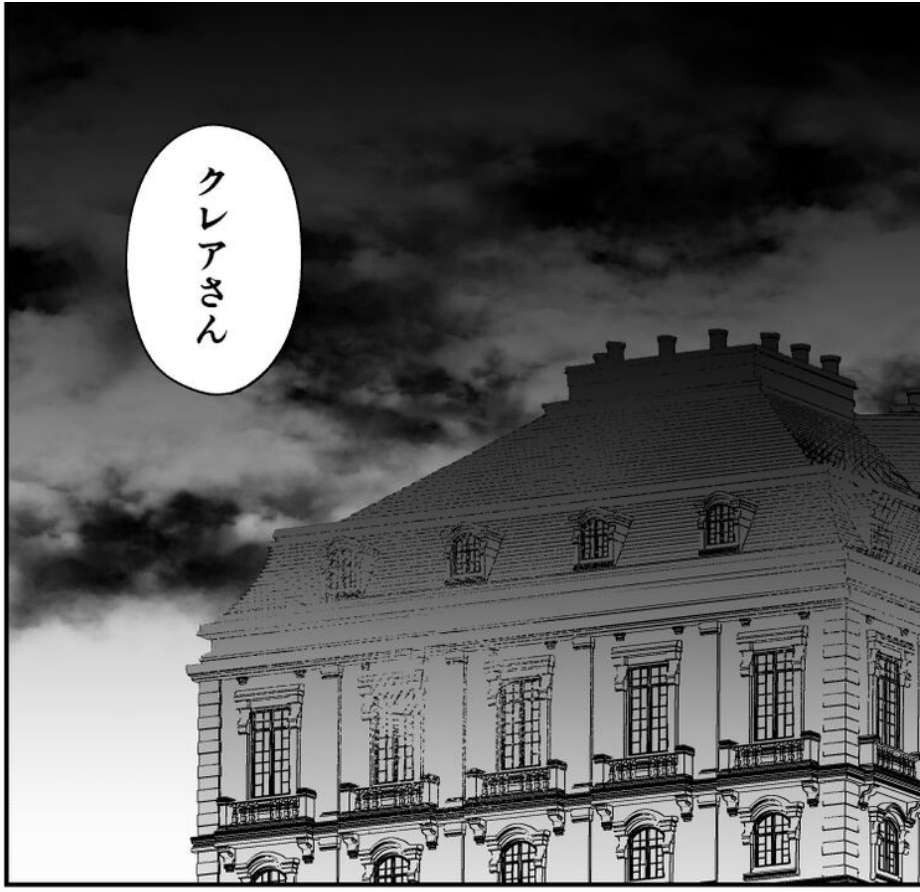

……そうだよ


……あいつがお前と話しながら何を考えてたか分かる？
？
つんっ
ぴっ


服の下はどうなってるんだろう
ぐりぐりぐり
どんな形でどんな色で触れたらどんな反応をしてくれるだろう
ぴっぴっ
ぴくっぴくっぴくっ
あいつはそんなことを考えてるんだよ
はっ
そ
そんなこと…
やっ
ミケル様!?
はっ
ビクッ


ピーッ
ピーッ
はっ
や
駄目です
びく
びく
!?
ぽっ
あっ
くいっ
びくん

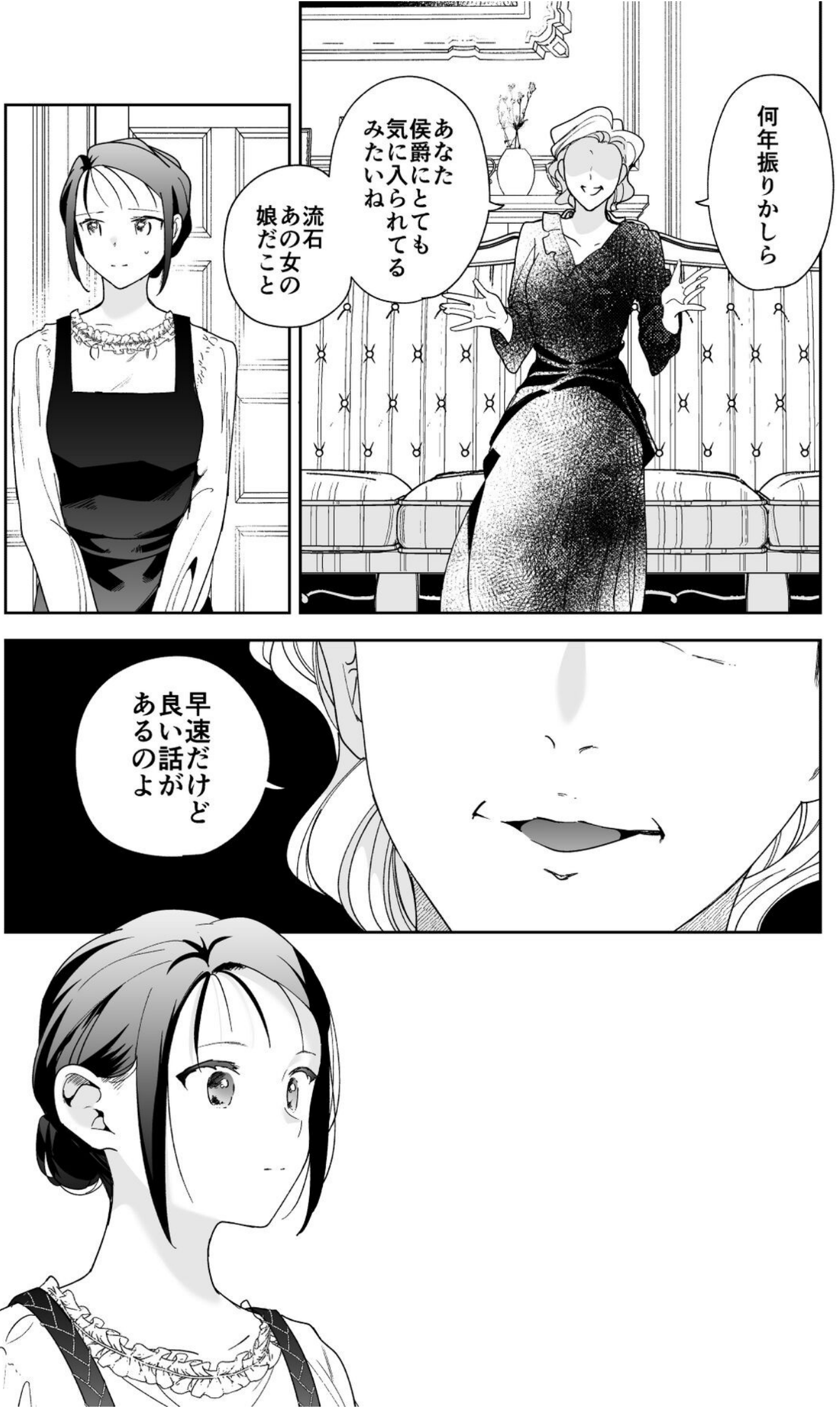

…?!
ビクッ
ミケル様っ
それは
そんな
汚いところ
見られて…
ちゅうっ
あっ
はぁ
ぴくっ
やっ
ふっ
ちゅっ
あっ
ふっ
ちゅっ
ぴくっ
全部
僕だけが
知ってるんだ
あっ
はっ
やあっ
はっ


クレアさん


子爵家から
手紙が
届いてます


子爵から
何かが届くのは
珍しいですね
……
…何が書いて
ありました？


継母様が
次の休日に
会いに来る
ようにと…
あの日から
ミケル様と
会話していない
雇われている身で
嫌だと主張して
ばかりの私に
愛想が
尽きたのかも
しれない
クレア


何年振りかしら
あなた侯爵にとても気に入られてるみたいね
流石あの女の娘だこと
早速だけど良い話があるのよ




ミケル様
クレア
この前は悪かった


ミケル様が謝る必要なんて…
…お話があるのですがよろしいでしょうか
話？
丁度良い
僕も話があるんだ
お前の話から聞こう
いいんですか…？

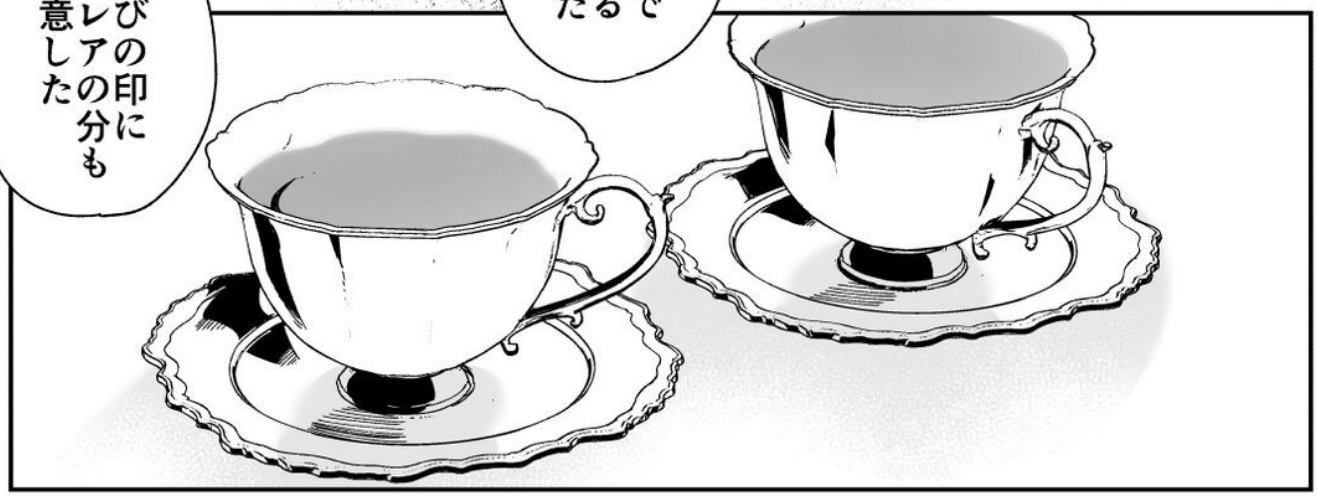
あのときのミケル様は怖かったけど

きっといつものことの延長だっただけだから

謝る必要なんて無いのに…

西方の国で流行ってる紅茶なんだ

詫びの印にクレアの分も用意した



座ってゆっくり話そう

……それは…



ほら

飲んでくれないと用意した僕が恥をかく



……では
失礼します





こくり…



どうだ？
美味いか？

はい
美味しいです

甘くて
飲みやすくて…



良かった

お前の好みの
味だと
思ってたんだ



さて
話を
聞こうか


……理由は？
継母様から家に帰るようにと…
やっぱりか
知ってるよ
えっ
縁談が来てるらしいじゃないか
…暇(いとま)を
頂きたいのです


キャサーウッド伯爵だろう


え…
何故ご存じで…
齢六十を迎える御高齢で無茶な求婚をしたものだ
承諾する子爵夫人にも呆れたよ


でも一番驚いたのは
クレアにだよ


僕のことはあんなに嫌がってたのに色狂いの爺なら良いんだ
クレアは…そんなに僕が嫌だった？


お恐れながら申し上げますが…
ミケル様は十分女性に慣れたかと思います
だから…
…は？


あんなの嘘だってまだ分かってなかったの？
暇なんて許すわけないだろう
ミケル…
さま…？
あれ
体の力が抜けて…


何？
何が起きてるの？
クレア
もうこんなにぬかるんでる
気持ち良い？
ミケル様っ
キュン♡


ミケル様
何してるの？
くちゅ
びくっ
くちゅ
びくっ
ちゅっ
にちゃ
何が
嫌なの
僕が
嫌なの？
くにゅ
くちゅ
やぁっ
くにゅ
やぁっ
ちゅく
あぁっ
ちゅく
あぁあっ
あっ
びくびく
震えて
男の前で
簡単に
脱いだり
したくせに
びくっ
はぁっ
ちが…
伯爵に
嫁ぐには
純潔じゃないと
駄目だろうな
今それが
無くなるから
しっかり…


覚えろ！
おおっ
これって殿方の…？
はいっちゃった…？
これで
…純潔じゃなくなった


ドクン ドクン
うそ… ドクン
おおきい
どくどくしてる
ドクン
ドクン
ギューン
むずむずする
なに? ぴくっ
ドクン なに?
ドクン
……っ!?
ドクン
時間をかけて
ほぐしたけど
痛くない…?
クレア
ビクッ
はぁっ
だめ
抜いて
ください
はぁっ
…抜くわけ
ないだろ
ドクン
はぁっ
クレアの中
あったかい
…クレアこそ
はぁっ
ドクン
みちっ
ビクッ
はぁっ
締め付けて…
はぁっ
ドク
離さないじゃ
ないか
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
ドク
!?
駄目だ
動くよ
ぐちゅっ
ビクッ


ミケル様
待って


クレア
止まらない


出る…っ


とめてくるるるっ
キュっくっ
……くっ
ビクッ
ビクッ
止まった…？
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
クレア
ビクッ
……っ!?
ちゅ


ちゅっ
ミケうさ
ちゅ
ちゅっ
くちゅ
くちゅ
ちゅ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
今僕の子種がクレアの中に入ったんだよ
子供ができるかもしれない
ずっと我慢してたから全然萎えない
子種…？
……子供？
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
はっ…


早くクレアは僕のだって声高に言いたい
クレアも僕で良いだろ…？
…やぁ
…まだ嫌がるの
……うぅ
これじゃ
母と同じ……に
なってしまいます


クレア…？
はぁ
はぁ
…私の母は
子爵家に仕える
使用人でした
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
私を産んで
すぐに
亡くなり
ましたが
妻がいる
父を誑かした
女だと
言われて


私は
母のように
なりたくないと…
思っていたのに
なのに
こんなことに
なってしまうなんて
はっ…
はっ…

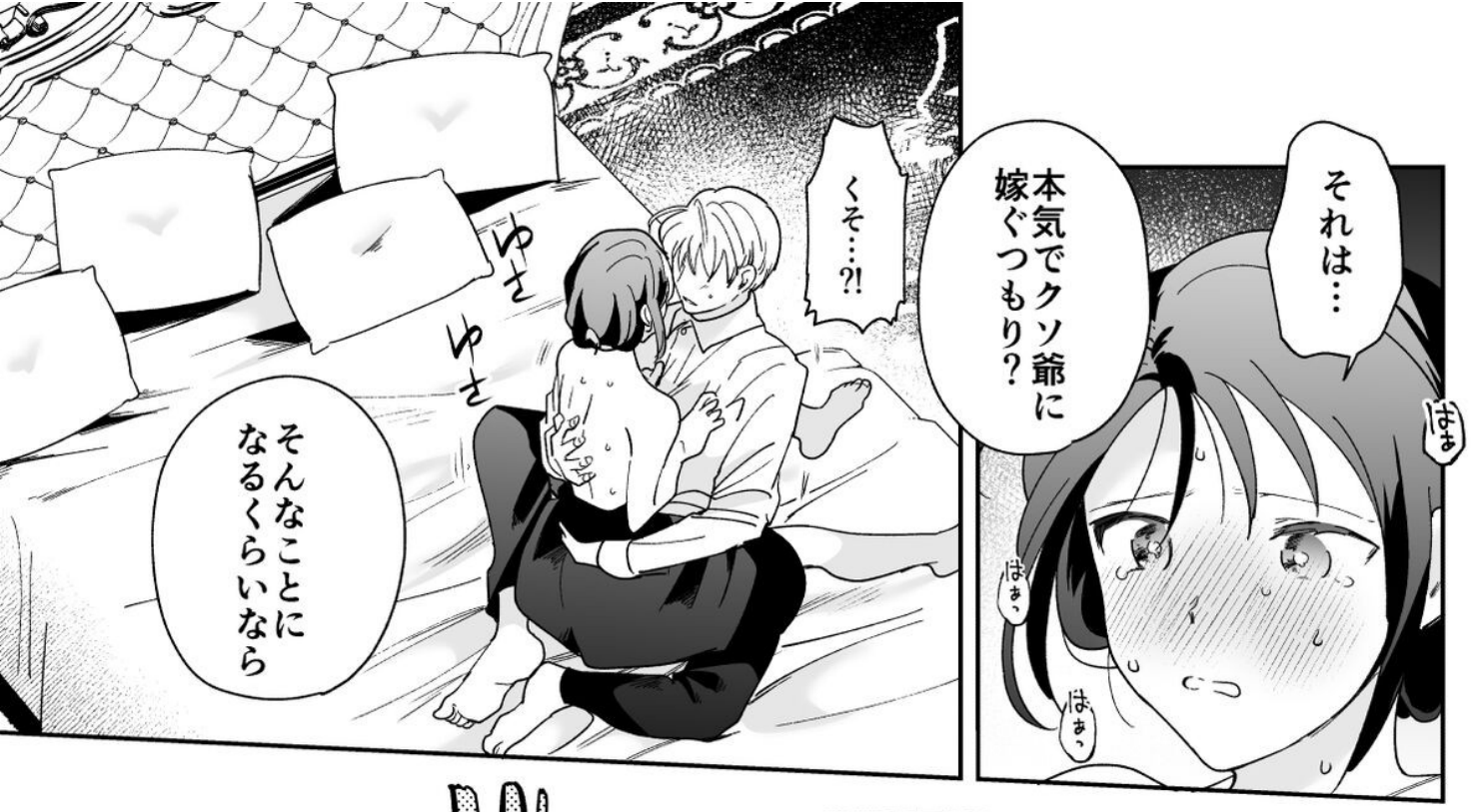

……
僕はお前以外
娶らないよ…？
お前以外
必要無い


ミケル様は
嘘をつく人です
信じられると
思いますか…？
ボロ
ボロ
はぁっ
それは
お前が
あんなことを
言うから…
はぁっ
……
どうしたら良い？
……
ぐすっ
ぐすっ
うっ
うっ
ずっとずっと
出会った時から
…好きだよ


……
…昔
ぐす…
ぐす…
…お前の母のことを調べたことがある
クレアという名前は母が付けたんだろう
素晴らしい名前だ
どこの生まれでどういう経緯で子爵家に仕えていたかも知ってる
ただお前の母がどんな人間でも僕には関係無い


僕はクレアが生まれたことに感謝してる
あっ
ビクッ
ミケルさま…
お前が自分を卑下するのが嫌いだった
ビクッ
ずるい…
やっ
あ
好意を伝えていたつもりだったのに
あっ
ビクッ
くぽくぽ
はっ
とろぉとろぉ
家に縛られているお前を手に入れるには
ビクッ
ぐりぐりぐり
おお！
ふー…ふー…
やっ…
もうこうするしか無かった
ビク


はっ
ミケルさまっ…
あっ
はぁ、
あっ
ん、
あ
ぴゃるるるっ
あぁっ
ビクッ
ビクビクッ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
実は父からも許可を得ている
お前に正式に求婚する許可を
えっ…


それは…
本気でクソ爺に嫁ぐつもり？
はぁ
はぁっ
はぁっ
くそ…?!
ゆさ
ゆさ
そんなことになるくらいなら


このままずっと繋がっていよう
私に選択権なんて
ずぷん
…あっ
ピクン
無いはずなのに
ミケル様…!?


早く僕を選んで
はあ…
はっ…
は…



僕の可愛いクレア



次期侯爵様が暇乞いを許さない

次期侯爵様が暇乞いを許さない

2023年4月7日　発行
発行：OTIBA
著者：喪みつ

画像の無断転載・複製・複写は禁止です。